



もぎたて通信

令和8年1月29日
長崎市立茂木小学校
発行 校長 松尾伸章

ホームページアドレス www.nagasaki-city.ed.jp/mogi-e/

暦の上ではもう春

「1月は行く月」「2月は逃げる月」「3月は去る月」とは、よく言ったものです。あっという間に1月が行ってしまう感じです。来週からもう2月です。

先週から、今季最長最強の寒波がやってきて、プールや運動場、砂場も凍るほどたいへん寒かったですが、来週2月4日は、いよいよ立春です。暦の上では、春のスタートです。

2月を「光の春」「春どなり」と呼ぶように、子供たちにも幸せな春を迎えるための2月にしていきたいと考えています。

2月の行事予定

- 2日(月) 安全の日 ※茂木中学校入学説明会
- 3日(火) 全校朝会 4年車いすバスケット体験
- 5日(木) 委員会活動(編制) トムソーヤーズ読み聞かせ1・2年
- 9日(月) チャレンジ検定(算数)
- 10日(火) もぎトーク にこきら自立学習(稲佐山)
- 11日(水) <建国記念の日>
- 12日(木) 入学説明会 トムソーヤーズ読み聞かせ1・2年
- 13日(金) 学校評議員会
- ※14日(土) トムソーヤーズ料理3・4年(ふれあいセンター)
- 16日(月) チャレンジ検定(国語) 縦割り共遊 4年びわの園交流学習
- 17日(火) 読書の日 1・3・5年授業参観・懇談会
- 18日(水) 3年社会科見学(歴史民俗資料館)
- 19日(木) 代表委員会
- 20日(金) 6年劇団四季こころの劇場観劇(午前;ブリックホール)
- ※21日(土) トムソーヤーズ料理5・6年(ふれあいセンター)
- 23日(月) <天皇誕生日>
- 24日(火) 全校朝会
- 25日(水) 5・6年卒業式合同練習 6年親子給食 2・4・6年授業参観・懇談会
- 26日(木) クラブ活動(3年生見学)
- 27日(金) スクールカウンセラー来校日

青少年意見発表会

1月18日(日)、中央公民館区青少年意見発表会が、県勤労福祉会館で開かれました。市内の小中学校より小学生10名、中学生7名の児童生徒が出場していましたが、本校からは、6年生のMさんが出場し、「ことわざから考えた社会を明るくするとは」という表題で発表をしました。「足るを知るものは富む」という諺をもとに、周りや自分に感謝することの大切さについて意見を述べました。そして、みんなにこの諺が広がって行って、自分や周りに感謝する気持ちを大きくしていくことで社会を明るくしたいと締めくくりました。日頃から放送委員として上手に校内放送を行っているMさんですが、意見発表の際もたいへんすばらしい、聞いている人たちにしっかりと思いを届ける立派な発表ができました。

キャリア教育

1月20日（火）3校時、6年生のキャリア教育の一環として、茂木地区花火大会実行委員長 様 にご来校をいただき、ご講話をいただきました。

茂木の花火大会の成功の裏にある苦労や感動体験を丁寧にお話しいただきながら、子供たちに目的・目標をもって取り組むことの大切さやチャレンジすることの大切さについて教えていただきました。また、社会人になって本当に必要なのは、地頭の良さ（思考力・発想力高さ）であることを子供たちに話してくださいました。自分で課題に気づき、その課題をどう解決していくか考える力を養っていくよう子供たちに示唆を与えていただきました。

1月23日（金）3校時には、茂木郵便局長 様 にご来校をいただき、ご講話をいただきました。

郵便局長にどうしてなったのか、郵便局長として何を大切にしているのか、これまでご自身の歩んできた道を振り返りながら、その思いを子供たちに分かりやすくお話しいただきました。そして、失敗をしても逆にそれがよかったと思える人になってほしいと、失敗をした人にアドバイスできる人になってほしいと語られ、失敗を恐れずチャレンジすることの大切さについて教えていただきました。また、茂木若人の会の会長として、茂木という地域への思い、人とのつながりの大切さについても話していただきました。

子供たちは、お二方の話を真剣に、そして嬉しそうに聞いていました。将来の自分の姿をしっかりと夢描きながら聞くことができたのではないのでしょうか。子供たちにとって、真の「生きる力」を育む、たいへん貴重な学びとなりました。

茂木小学校のめざす子ども像は、「思いやりのある子ども」「しっかり学びあう子ども」「元気でたくましい子ども」です。そして、その主題に「気づき、考え、実行する茂木っ子をめざして」を掲げています。このめざす子ども像が真の「生きる力」へとつながります。学校で学ぶ勉強や運動の力は、社会に出たとき、実際にそれだけでは力にならないものなのかもしれません。しかし、当然不要なものではなく、将来社会を生きていく上で、その子の様々な武器の一つとして使われていくものです。よりたくさんの、より確かな武器を身につけ、さらにその武器をしっかりと使いこなす力を育てていくことが、真の「生きる力」を身につけるということでしょう。これからも子供たちの真の「生きる力」を育てていけるよう、全職員で、全力で本校の教育活動を展開していきます。

若菜川を眺めて

アフリカに「ひとりの子供を育てるには、ひとつの村が要る」という格言があるそうです。「子供が育つ」ということは、身体的な成長だけでなく、多くの人との関わりの中で、社会性など様々な力を育てていかなければならないということを意味しているそうです。

生物学上、人間は他の生物とは違う特性を多く持っています。その一つが、「子供を産むことができなくなっても、長く生きることができる」ことです。

生物の多くは、生殖機能がなくなるとその役目を終えます。しかし、人間は違います。それぞれの役目をもって、社会集団の中で生きていきます。10代には10代の役目、40代には40代の役目、70代には70代の役目があるということです。

残念ながら、現代社会では、そうした世代の役目がやや薄れてきているようです。しかし、茂木の地域力には、その底力を感じずにはいられません。花火大会の盛り上がりなどを見ても、この世代の役目というものがしっかりと果たされているように感じます。時代は変わっていても、それぞれの世代には、それぞれの役目があり、社会集団の中でもつその役目には、間違いなく大きな意味があると思います。

「ひとりの子供を育てるには、ひとつの村が要る」の格言のように、「茂木小学校の子供を育てるには、茂木小学校区の地域が要る」と言えます。茂木小学校の子供たちを育てるには、周りにいるすべての人のそれぞれの役目が必要です。これからも、茂木っ子たちの健やかな成長を願って、そんな地域とのつながりを大切にしていきたいと考えています。